

草花遊びの実践に向けて

—若い保育者による環境教育の実践に向けて—

赤澤 誠一・片岡 巧・仲谷 辰夫

Aiming at the practice of the plants play.
Aiming at the practice of the environmental education
by young nursery school teachers.

Seiichi Akazawa, Takumi Kataoka, Tatsuo Nakaya

豊岡短期大学 論集

第 14 号 別 冊

平成 30 年 2 月 28 日 発 行

草花遊びの実践に向けて

—若い保育者による環境教育の実践に向けて—

Aiming at the practice of the plants play.

Aiming at the practice of the environmental education by young
nursery school teachers.

赤 澤 誠 一 片 岡 巧 仲 谷 辰 夫

Seiichi Akazawa Takumi Kataoka Tatsuo Nakaya

はじめに

幼児教育に自然環境を取り入れることは極めて重要である。

文部科学省は、幼稚園教育要領の5領域に「環境」を設定し、そのねらいの(1)に「身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ。」としている。また、内容の(1)で「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。(4)で「自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。」としている。そして、内容の取扱いとして(1)幼児が、遊びの中で周囲の環境と関わり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き……（後略）(2)幼児期において自然の持つ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の心の安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう工夫すること。としている。

自然は子どもたちを取り巻く環境の大きな部分を占めるものであり、環境教育とは切っても切れないものである。また、「自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。」に照らして、幼児が草花を取り入れて遊ぶことは意義がある。草花遊びの中で、周囲の世界に好奇心を抱き、心の安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることが期待される。

とかく、屋内遊びに偏りがちな現代の子どもたちにとって、草花遊びは屋外での自然と触れ合う機会になるだけでなく、如いては5領域の健康、人間関係、表現の醸成にも寄与するものと考えられる。

草花遊びの伝承について考えると、古くは石器時代に草笛があったという研究もあるが、本来は、祖父母・父母から子・孫へ、地域の子ども集団で年長者から年少者へと、遊びや触れ合いの中で伝承されてきた。しかし、核家族化が進み地域の異年齢集団が崩壊した現代、その伝

承が非常に難しくなってきたと言わざるを得ない。

そこで、教師や保育者の環境教育(草花遊び)への働きかけが必要不可欠となってきた。

文部科学省は、幼稚園教育要領解説で、「幼児期は、生活の中で自発的・主体的に環境とかかわりあいながら直接的・具体的な体験を通して、生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などを身に付けていく時期である。」とし、環境を通して行う教育は、「環境の中に教育的価値を含ませながら、幼児が自ら興味や関心を持って環境に取り組み、試行錯誤を経て、環境へのふさわしいかかわり方を身に付けていくことを意図した教育である。」としている。そしてその上で、「環境とのかかわりを深め、幼児の学びを可能にするものが、教師と幼児とのかかわりである。」とし、「教師自身も環境の一部である。教師の動きや態度は幼児の安心感の源であり、幼児の視線は、教師の意図する、しないにかかわらず、教師の姿に注がれていることが少なくない。物的環境の構成に取り組んでいる教師の姿や同じ仲間の姿があつてこそ、その物的環境への幼児の興味や関心が生み出される。教師がモデルとして物的環境へのかかわりを示すことで、充実した環境へのかかわりが生まれてくる。」とした。

草花遊びの伝承者が、家庭や地域に枯渇しつつある現在、教師がその良き伝承者にならざるを得ない時代である。

ここで、現代の若者をみたとき、果たして伝承者になり得るのであろうか。筆者が、ある年配の小学校教師から聞いた話だが、「都会育ちの新任のA先生は、『くよもぎ』を知らない。名前

は知っているが、どの草が、それか分からない。教えてもらったこともない。』と言った。」そうである。これは、極端な例かもしれないが無理もない話である。現代の若者は〈草花遊び〉を継承されていないのである。現状では、草花の名前やその遊び方まで熟知している若い教師・保育者は稀有な存在であろう。

そこで、環境教育の充実に向けた草花遊びの実践に少しでも寄与すべく、起稿した。

具体的な取り組み

〈草花遊び〉そのものについては、多くの図鑑や研究物がある。草花遊びを実践するに際して、その隘路となるのは、植物の同定や生育場所の特定であろう。

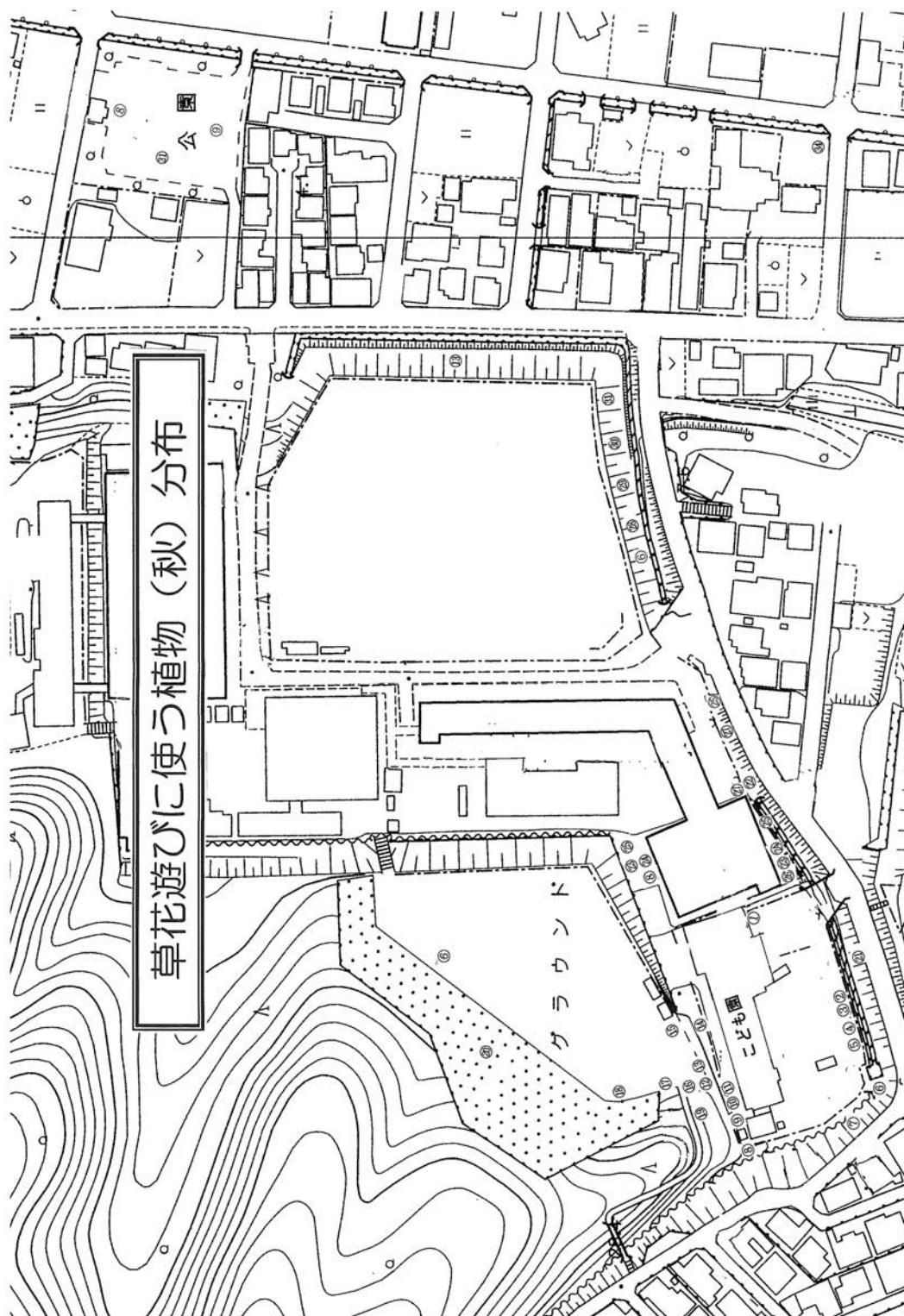
そこで、本研究では一例として、A認定こども園周辺地域を設定した。本研究は、あくまでも、一つの幼稚園・認定こども園・保育園を想定した研究である。「こうすれば、若い保育者が無理なく環境教育〈草花遊び〉に取り組める。」その一例として捉えていただきたい。

【調査項目】

〈草花遊びに適した植物の分布調査〉

子ども園内 こども園周辺

園外保育通路付近等、園児が行動する地域の草花遊びに適した植物の分布を調査した。そして、その生育する場所を地図に番号で記入した。



- | | |
|-------------|--------------|
| ① ヒイラギ | ② シロツメグサ |
| ③ オオバコ | ④ ツバキ |
| ⑤ イチョウ | ⑥ ススキ |
| ⑧ スギナ | ⑨ メヒシバ |
| ⑩ オオバコ | ⑪ ジュズダマ |
| ⑫ ササ | ⑬ アメリカセンダングサ |
| ⑭ フウセンカズラ | ⑮ カゼクサ |
| ⑯ クズ | ⑰ ススキ |
| ⑱ チカラシバ | ⑲ アラカシ |
| ⑳ クリ | ㉑ ヌスビトハギ |
| ㉒ ヤツデ | ㉓ フキ |
| ㉔ イノコヅチ | ㉕ マツ |
| ㉖ ジャノヒゲ | ㉗ イタドリ |
| ㉘ オギ | ㉙ エノコログサ |
| ㉚ ヨウシュヤマゴボウ | |

〈草花遊びの方法〉

上表の植物①～③④の遊び方について、以下に示す。

～タンポポを使った遊び～



〔特徴〕

多くは黄色い花を咲かせ、綿毛(冠毛)のついた種子を作る。生命力

の強い植物である。

〈遊び方〉

(1) わたげ飛ばし。

・吹く方向場所に注意して、わたげを飛ばす。

(2) タンポポ笛

- ・長めの茎を探し、花の部分を取り、筒状にする。
- ・花のついた細い方を口にして吹くと、ブーッと低い音がする。うまく音が出ないときは長さを調節する。

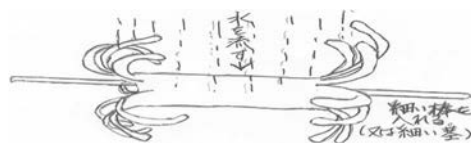
※くわえると少し苦い。

(3) タンポポプレスレット、指輪



- ・茎を2つに裂く。
- ・手首か指に絡んで留める。

(4) タンポポ水車・風車



- ・茎に切れ目を入れて水に浸す。
- ・丸まったら串か細い棒、細い茎に通す。

※流れのある水につけると水車、息を強く吹いて回せば風車となります。

～②シロツメグサを使った遊び～



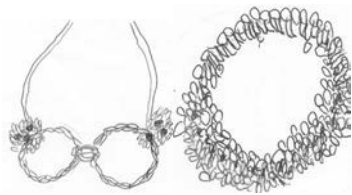
〔特徴〕

時に4小葉やそれ以上のものもあり、特に4小葉のものは「四つ葉のクローバー」として珍重される。

〈遊び方〉

(1) メガネをつくろう。

・茎の長い花3本を三つ編みにし、輪にして糸で縛りとめる。これがレンズになるので右と左と2つ作りましょう。



(2) 花冠をつくろう。

・2本・3本・4本と編んでつけてい

き、気に入った太さにしていく。

～③オオバコを使った遊び～



【特徴】

和名の由来は、葉が広く大きいことから「大葉子」と名付けられたと言われる。

道端などに、ごく普通に自生する雑草。

〈遊び方〉

(1) オオバコ相撲

・太くて丈夫そうなのを探して採ります。これを両手で持ち、Uの字に絡めてに引っ張り合います。切れた方が負けとなります。

～④エノコログサを使った遊び～



【特徴】

イネ科エノコログサ属の植物で一年生草本である。

夏から秋にかけて花穂をつける

〈遊び方〉

(1) エノコログサの毛虫



・穂の部分を取り、穂の先が下にくるようにして軽く握ります。

・にぎにぎすると、だんだん上に上がってきます。

～⑤メヒシバ・オヒシバを使った遊び～



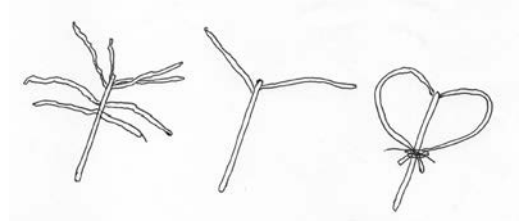
【特徴】

①イネ科の植物、道端でよく見かける雑草。おひしばの方が太くて逞しい。

〈遊び方〉

(1) ハートのステッキ

・2本の穂を残して、他の穂を根本から切り落とします
・2本の穂を残して、他の穂を根本から切り落とします。
・穂の一本を指でしごいてタネを取ります。
・タネを取った穂は、後でヒモとして使います。



・オヒシバの穂を下に曲げて指で押さえます。(ハート形にする)

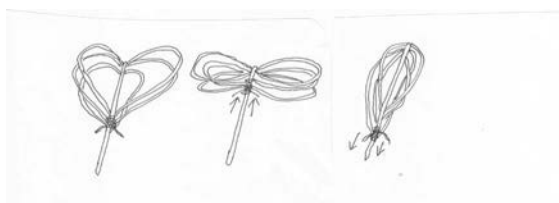
・指で押さえている部分を、先ほど作ったヒモで縛ります。

(2) メヒシバの折りたたみ傘

・一番下に生えている穂を取ります。
・抜いた穂を指でしごいてタネを取ります。
・タネを取った穂は、後でヒモとして使います。
・全部の穂を下に曲げて、広がらないように指で押さえておきます。

・指で押さえている部分を、先ほど作ったヒモで縛ります。

・束ねてある部分を上げると傘が開きます。
・束ねてある部分を下げると傘が閉じます。



～⑥ススキ⑩オギを使った遊び～



【特徴】

イネ科ススキ属の植物
尾花ともい
い秋の七草の
ひとつ。

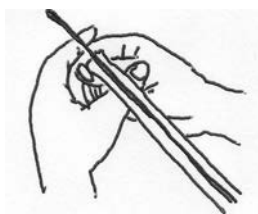
茅 (かや) と呼ばれる一種。

〈遊び方〉

(1) ススキの葉っぱロケット

・葉っぱのものとの方から5Cmほど葉脈の両側を裂く。
・裂いた方を飛ばす方に向け、両側の葉っぱの部分を持ちます
・その葉っぱをもう片方の手で手前にずっと引くと葉脈がシュッと飛んでいきます。

・手を切らないように注意して遊びましょう。



※ぜったいに人の顔の方に向けないように、又、声をかけましょう。

～⑧つくし・スギナを使った遊び～



【特徴】

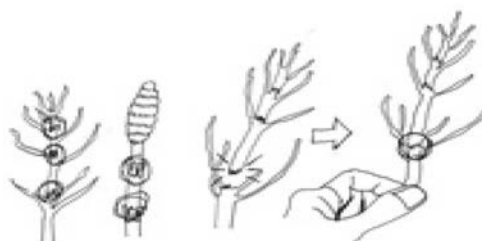
つくしとスギナは同じ

地下茎から生えてきます。

つくしは春ですが、スギナはその後の夏、秋に生えています。

〈遊び方〉

(1) スギナクイズ



・どこか1つの節を外します。(相手に見られないように) ※上図の○の所
・外したところを元に戻します。
・「くっついていないとこ、ど〜こだ」と尋ねて、当てさせて遊ぶ。

～ノコンギクを使った遊び～



【特徴】

ヨメナ、ノコンギク、ユウガギク、シラヤマギクと、良く似た野菊は多い。

〈遊び方〉

(1) ノコンギクの占い

・小さくてかわいい花びらを使って、ひとひらずつ抜いていき、最後の1枚の結果で、いろいろと占いをする。

～⑬アメリカセンダングサでの遊び～



【特徴】

道端や空き地、湿り気のある荒れ地などに生えている。

キク科センダングサ属の1年草である。

〈遊び方〉

(1) くっつけごっこ

・果実又は果実のついたままの茎を相手の服に投げつける。

・たくさん服につけられた方が負け。



・②④イノコヅチや②①ヌズビトハギでも、くっつけあって遊ぶことができる。



～アサガオを使った遊び～

【特徴】

つる性、花は円錐形で真夏に開花する。ヒルガオ科サツマイモ属の1年性植物である。

〈遊び方〉



(1) 葉っぱでの音出し遊び

・片方の手で輪をつくり、その上に葉を乗せる。

葉を人差し指で少し

押して、へこませる。へこんだところを手の



ひらで勢いよく叩くと、パンと音が鳴る。

(2) 花でも音が出るよ。



- ・花が咲いた後のしぼんだ花を取り、花の先をつまむ。花の根元の穴から空気を吹き込むとプスッと破裂する。

～⑩ジュズダマを使った遊び～

[特徴]

水辺や荒れ地に生える。帰化植物。
秋に実になる。実を数珠として利用したことから、この名が付いた。

〈遊び方〉

(1) 首飾り (ネックレス)

- ・実を集めて、そのおしり側から糸などを通して輪にする。



(2) マラカスづくり

- ・小さなペットボトルの空き容器に実をいくつか入れる。
- ・容器の種類を替えたり実の数を変えたりすると、異なる音が出る。
- ・容器に色をつけても面白い。



～⑤イチョウの葉～



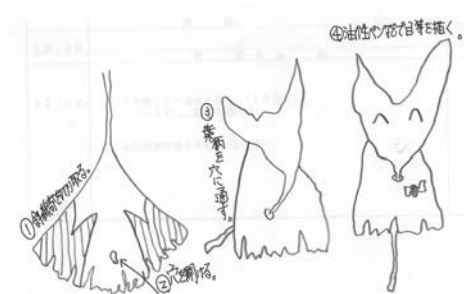
[特徴]

樹高20～30mの落葉高木。雌雄異株。
中国原産の裸子植物である。

〈遊び方〉

(1) キツネをつくろう。

- ・葉柄を上にして葉を持ち、屋根つきの家の形になるように、葉の左右を切り取る。



- ・屋根の部分は全体の高さの半分くらいになるように切る。屋根の左右のでっぱり部分が、きつねの耳になる。
- ・中央よりやや下から3分の1くらいのところに、葉柄が通る穴を開ける。
- ・その穴に葉柄を通して、葉柄全体を葉の後ろに引くと、残った上部部分がきつねの顔になる。
- ・油性ペンなどで、目などを描くと面白い。

～⑩クズを使った遊び～



【特徴】

マメ科クズ属のつる性多年草である。

根を用いて食材の葛粉や漢方薬が作られ、万葉の昔から秋の七草の1つに数えられている。

〈遊び方〉

(1) ムカデだぞ～

- ・ 葉の柄の部分だけをたくさん集める。なるべく長さはそろえ、葉は捨てる。



- ・ 2本の柄を胴体にする。
- ・ 別の柄を基部を右に、胴体の上部の手前に当て足の部分を1cm程度出して巻く。



- ・ また別の柄を同じように左に足が出るようにする。
- ・ これを繰り返す、最後は2～3回柄を巻いて止める。

～⑪ヒイラギを使った遊び～

(1) ヒイラギの風車

ヒイラギの葉の出っ張りを指で軽くはさんで、息を吹きかけて回す。

～⑫ササを使った遊び～

(1) ササ船

- ・ 葉を、両端から2cm位を内側へ折り、葉脈に沿って、3つに切れ目を入れる切れ目は折った両端から1.5cm位、2ヶ所)。
- ・ 切れ目3つの内、外側の2つを内側に曲げ、一方を他方の折れ目に挿し込む。
- ・ 反対側の端も同様に曲げて、挿しこむと舟ができる

～⑬チカラシバを使った遊び～

(1) 毛虫の競馬

- ・ 穂を切り取り(一部の茎を残し頭にする)、穂のおしりを別の茎つきの穂や小枝で叩くと前進する。数人で競争をする。

～⑭アラカシを使った遊び～

(1) こま

どんぐりの上部(丸い方)に「きり」で、穴をあけ、爪楊枝、マッチ棒などを挿しこむ。

(2) やじろべえ

- ・ どんぐり3個、竹ひご10cm位を2本用意する。
- ・ 1つの実の腹部の左右にきりで穴をあけ、竹ひごを挿す。
- ・ 他の2つのどんぐりの腹にも穴を1つつあけ、上記の竹ひごを挿す。

(3) 笛

どんぐりの上部をコンクリートなどでこすり、平らにして、楊枝などで中身を掻出す。穴の部分を水平にして口を当てて吹く。

～㊥マツを使った遊び～

(1) 松葉すもう

- ・ 2人がそれぞれ、松葉をもち、それぞれが松葉を開いて、(つなぎ目)で互いにX形に交差するように、からませる。
- ・ 松葉のそれぞれの足の方を持って引っ張り合い、つなぎ目の切れた方が負け。

～㊦ツバキを使った遊び～

(1) 葉っぱのまき笛

- ・ 歯の根元を少し切り、やや斜めにして巻き、細いほうを押しつぶし、つぶれた部分を口にくわえて吹く。

～㊧ヤツデ ㊨フキを使った遊び～

(1) お面づくり

- ・ 葉に絵をかいたり穴をあけたりして、お面を作る

※ ㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲は紙面の都合上、省略。

※ タンポポ、アサガオ、ノコンギクについては、多く見られる植物なので図に示した。

〈注意事項〉

- 野外活動が中心になるので、有害な動植物や熱中症へ細心の注意を払いたい。
- 野生植物と栽培植物の区別をしっかりと付けさせる。

おわりに

現地調査をしたのが、秋であったので、必然的に記載したほとんどが秋の草花となった。

「草花遊び」に適した植物が、A認定こども園のすぐ傍に想像以上の種類が存在した。このこども園は田園地帯の倅を残したところにあるとはいえ、かなりの数である。

このことは、例外的な施設を除いて、たいていの園の近くでも「草花遊び」に適した植物が数多く存在することを示しているのではなかろうか。そして、保育者が意欲を持って取り組めば、「草花遊び」を取り入れた環境教育は、ほとんどの幼・保・認定こども園で実践可能であることを示している。核になる幼稚園教諭・保育士がいて、付近の「草花遊び」に適した植物を同定できれば、すぐにでも実践が可能であると考ええる。そして、春・夏・秋のマップが揃えば、ほぼ一年を通して「草花遊び」が実践できるであろう。

参考文献

- ¹⁾ 田治米 富子 堀 和弘 編
幼稚園教育実習事前・事後指導
近畿大学豊岡短期大学通信教育部
平成24年4月1日発行
- ²⁾ 文部科学省
幼稚園教育要領解説
株式会社 フレーベル館
平成20年10月1日発行
- ³⁾ 小林 正明 著 小林茉由 絵
草花遊び図鑑
全国農村教育協会
平成20年7月10日発行